

米国コロラド州ボルダーに本部を置く、『ロルフ・インスティテュート』は、創始者アイダ・ロルフ博士の遺志を継ぎ、優れたロルフ・インギング®の施術者、ロルフ・ファー™を生み出すための教育機関である。

新しい理事会の下で、数年前からインスティテュートの運営体制が変わって、ビジネスプランなるものが打ち出され、教育プログラムにも介入が始まった。7月に本部で予定されていた私のクラスが流れてしまったので、2017年はボルダーに呼ばれないのなか、と寂しく思っていたところに、教員会議の案内が届いた。年に一度開催されている教育についての話し合いの場に、せっかく日本から出向くには何か痕跡を残したい。そこで、会議の世話人に、「間」についての私のワークを紹介する機会を設けてほしいとリクエストしてみた。意外にもすんなり要求が通り、90分の枠が与えられた。プレゼン枠はふたつ。演者のひとりには、上級ロルフ・インギング講師のマイケル・サルベソン、私の上級トレーニングの先生の一人で、ロルフ博士から指導を受けた後、講師として任命された重鎮である。私はその後、エントリーされていた。

30〜40年のキャリアを持つ重鎮が集う目の前で、プレゼンするという無謀さに、2017年は出席を見送った恩師のキャロル先生もメールで、「あなたは勇敢ね!」とエールを送ってくれた。

## 保守とリベラル

ロルフ・インギングの実際のやり方を大ざっぱに分けると、圧力をガッツリかけて筋膜を直接的に調整する古典的な流儀を大切にしている保守派と、自分に合う技法や他の概念を積極的に取り入れるリベラル派に分かれる。後者はどちらかというと繊細な動きかけを好み、中に

## ロルフ・ファー、9年ぶりにボルダーへ!

# ロルフ・インギング追求記。

### パート5 — 完結編 —

ロルフ・インギングの田畑さんから編集部へメールが。「ボルダーでデモ・セッションを行って来ました」。久しぶりの訪問と恩師との再会で、大きく得たものがあった様子。変わりゆく体制の中で、田畑さんが考えたことは?

文 ● 田畑浩良      illustration by Yuri Mizutani



### 9年振りのボルダー

成田ーデンバー直行便、レンタカーを利用して、ボルダーに到着。そして自分が学んだ旧校舎に参拝。この周辺は、歴史的景観区域として保護されている。そのお陰で毎回ここに来ると、自分がトレーニングしていた当時にタイムスリップする。前回は、オバマ氏が大統領に選ばれる直前だった。

### 会議初日

ディレクターから、新しく導入する配布資料のクラウド上での管理システムと、教育プログラムにおける生徒の評価の変更についての説明。中身より、話と話の間にまったく隙間がないことがやけに気になる。「間」についての重要性をことさら強調したい気分になった。会議後は、ムーブメントの教員で会食して意見を交換。

### 2日目 デモ・セッション当日

午前中最初のプレゼンは、マイケル・サルベソンによる、脊椎のマニピュレーション。

は保守的流儀が肌に合わないというロルフ・ファーも存在する。重鎮の多くは、当然保守派が多く、影響力も強い。この保守とリベラルの考え方の違いは、「ロルフ・インギングとは何か?」という大きな問いとも深く関連している。マイケルが保守代表とすると、私はリベラルの少数派に過ぎない。

### 日本固有の「間合い」

受け手と施術者の間に、ある位置関係が見出されると、変容を促す場が形成され、受け手の身体が自己調整するプロセスが開始して、身体構造や空間への知覚も変化する。

これは、「どうしたら受け手の内側からの変化を引き出せるか?」という探求を続けるうちに得られた知見で、ガッツリ圧をかける古典的流儀とは対極にある、一切触れないワークである。多くのワークショップでの経験則から、素人同士であっても、適切な間合いさえ見つければ、それだけで変容することがわかってきた。

が、しかし、会議という場で、それをうまく示せるかどうかは別だ。

短い講義の後、講師のひとりモデルにしての脊椎調整への詳細なテクニックが矢継ぎ早に紹介される。相互にやり取りする「セッション」というより、素手で行う手術という印象だ。

### いよいよ自分の番

デモの前に、まずこれまでの実例をワーク前後の写真をスライドで示す。その中に、今回出席しているレイ・マッコール先生とは旧知のMさんのデータを持ってきた。Mさんは、たまたまこの会議の2か月前にワークショップを受けに来てくれたのだが、2016年に日本で開催された上級トレーニング中にレイ先生からアドバンスト・シリーズを受けた経験がある。まるで、今回のプレゼンのデータを提供するために来てくれたような絶妙なタイミングだった。彼の協力で、ワークを受けた後、数日経過しても変化が続いた結果を写真に残せたので、このワークが一時的な効果ではないことを示すことができた。

### そして、デモ・セッション

モデル・クライアントに立候補してくれたのは、以前サンタクルーズでのワークショップ



デモ・セッション中の田畑さん。



久しぶりのボールダーで仲間たちと。

に参加してくれたことのあるリサ。最初の状態としては、右股関節と左肋骨下に違和感があるという。マッサージテーブル上のリサをまず自分が居心地よく見守ることができ、位置を探し、その場所にとりあえず落ち着くリサからフィードバックをもらいながら、最初の私の立ち位置を決定する。彼女の右側のある位置にとどまっていると、呼吸や身体の預けやすさに違いが生まれる。部屋の中の空気が落ち着いてくるのを感じつつ、タイミングを見計らって反対側に移動する。そのままその場所から見守っていると、左の肋骨下が狭まっている感じが抜けて広がりが出てくる。プロセスが落ち着いたところで右側に戻り、私の手をリサの右脛付近から浮かせてしっくりくる位置に置く。すると、右股関節が意識されるようになって感覚がでてくると同時にスペースができたという。

マッサージテーブルから下りて歩いてもらうと、股関節の可動域が広がり、違和感も消えているという。また、周囲の空間に対する知覚が広がったという気づきと共に、彼女の表情が明るく、周囲に放射しているののように見えたことが印象的だった。セッションの終わりと共に自然と拍手が起こる。締めくくりにして、今撮ったセッション前後の写真をスクリーンに映す。比較すると明らかにリサの上半身がセッション後リフトされている。わかりやすい変化に、再び拍手が起こった。お礼を込めて最後にリサとハグ。

全体の場もセッションに共振したのか、やわらかい感じになった。上級

クラス同期のダフィが、「あなたは勇敢だわ!」といって褒めてくれた。同じ言葉で応援してくれた恩師からも、「あなたのデモは、圧巻だった! という評判が届いています」というメールをもらった。

### 3日目 最終日にかけて

その後は、再び新体制についての説明。簡単にいうと、今までより内容を詰め込んで、トレーニング期間も圧縮する方向で話が進んでいる。新理事体制下の運営優先の方向性に強い懸念を感じたので、トレーニングの自身を自分のものとして消化し、体現するために、しかるべき時間が必要であると訴えてみた。休憩の合間に個人的に話すと、急激な体制の変化に違和感を感じている同僚が少なくないことを知り、少しほっとした。これらのプログラムを採用するかどうかは各国の協会に任されている。

### 帰国前に

今回のボールダー出張最終日、インスティテュートで長きにわたって教鞭を執ったジム・アッシャー先生を訪ねた。彼は、日本のロルフ・インギングの発展に貢献したひとりだ。特に、日本にロルフ・インギングがほとんどいない時期に幾度も来日し、ワークショップを開いて

くれた。

彼の1993年最初のワークショップに加したことが、具体的にロルフ・インギングを指す大きなきつかけとなった。彼の自宅には、何度もステイさせてもらい、トレーニング中お世話になった。

この日は偶然にも彼の誕生日で、ケーキを持参して、会議の席で私がデモしたことを報告した。マイケル・サルベソンのデモと私のデモが、全く対照的な内容だったことを告げると、「それは、グッドだ。ロルフ博士も生前、博士のやり方を模倣するのではなく、ロルフ・インギングをしてほしい、と望んでいたからね」と話してくれた。自分のやっていることには自信があるものの、果たしてそれがロルフ・インギングか? と聞かれると、どこか歯切れの悪い自分がいた。しかし、ロルフ博士と長く時間を共にした彼の言葉を通して、「それでいいのだ」と励まされたような気がした。

22年前、会社を辞めて退路を断って訪れたボールダー。その土地で、最初にお世話になった先生にお礼参りしたことが、予想外に私にとって大きな意味を持っていたように思う。ロルフ・インギングのシリーズに終わりがあろうに、何かひとつ大きな区切りがあったのだと思う。

※1 ロルフ・インギング®、ロルフ・ムーブメント™、Rolf Instituteは、The Rolf Institute of Structural Integrationの商標であり、米国以外に日本を含む他の国々で登録されています。日本で活動しているロルフ・インギング協会の公式サイト(rolfing.or.jp)を参照ください。

※2 ロルフ・インギングとして認定された後の上級資格認定プログラム。2015年から2016年にかけて日本初の上級トレーニングが開催された。

※3 前回は、教員になるための課程として、授業助手をするために来ていた。その時のレポートを、ソフト2009年3月号・112ページに書いています。

※4 身体機能統合のためのロルフ・ムーブメント認定トレーニングの講師。

※5 当時、日本人として初めてロルフ・インギングにいられた幸田良隆さんが、ジム・アッシャー先生を招聘して開催された頭蓋仙骨システムに働きかける内容のクラス。

### 田畑浩良

たはた・ひろよし ●ロルフ・インギング (株)林原生物化学研究所の研究員を経て、1998年米国 Rolf Institute®によってロルフ・インギング™として認定。動的感覚を伴った繊細なタッチで行う個人セッションを中心に活動。2009年以降 Rolf Instituteのムーブメント教員として、「肚」「間合い」といった日本固有の感覚と概念を導入しつつ、継続教育のワークショップを提供している。2017年7月には、小林健自然療法医師からマスターヒーラー認定を受ける。www.rolfinger.com

